

月日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	4/18	5/18	6/15	7/20	8/1	8/12	9/26		
生育期区分	播種期	出芽期	苗立期	有効分げつ期	無効分げつ期	幼穂形成期	出穂期	登熟期	
主な作業	播種 除草剤散布① (出芽前) (4月中旬播種で2週間後)	除草剤散布② (入水直前)	除草剤散布③ (入水後)	葉いもち防除		穂揃期防除	傾穂期防除	収穫	代かき
生育期の目安	播種時期	出芽期	幼穂形成期	出穂期	成熟期				
	4月中旬 4月下旬	5月18日 5月23日	7月20日 7月23日	8月12日 8月14日	9月22日 9月27日				

水管理	播種後に好天が続く場合は通水する	遅れずに入水 イネ2葉期	中干しは実施しない	湛水管理	落水 収穫3～4日前
-----	------------------	-----------------	-----------	------	---------------

ほ場の選定・準備

- 冬期代かき実施のため、用水の確保ができる地域。
- 播種時には、ほ場が乾燥する排水良好なほ場。
- 強粘土質土壌は避ける（播種後に自然覆土されにくいため）。
- 入水後は減水深が小さい（1cm/日）ほ場。
- 漏水防止のため、畦塗り機により畦畔を補修する。
- 漏生籾による混種を防ぐため、前作と同一品種を作付ける。



漏水防止のための畦畔補修

土壌改良

- 品質向上のため、必ずケイ酸質資材を施用し、地力に応じて堆肥を施用する。
- ケイ酸質・アルカリ資材 60～100kg/10a、堆肥 1～2t/10a
- 基肥に含まれていないリン酸・カリは、代かき前に施用する。
- PKけい酸 40～60kg/10a



丁寧な代かきでワラ等をすき込

代かき・作溝

前年秋～12月までに実施

- 代かきは均平を心がけ、わらや刈り株がすきこまれるように丁寧に行う。
- 作溝は、代かき後、大きな水たまりがなくなった頃に行う。（溝肩が盛り上がらないように注意）



排水を促すための作溝

播種準備

種籾の浸種・催芽は不要

- 成熟期が遅れるため、コシヒカリより熟期の遅い品種は避ける。
- 乾籾1kg当たりキヒゲンR-2フロアブル20mlを塗沫処理する。

播種

- 播種時期：4月中旬～下旬
- トラクターのわだちができない程度にほ場が十分に乾燥した状態で播種する。
- 播種後、晴天が続く、ほ場が乾燥しすぎる場合は通水を行い、出芽を促進する。



播種作業

【播種量や施肥量の目安】

※堆肥連用等により地力が高いほ場では、1割程度減肥する

土壌区分	施肥量	播種量
沖積砂壤土、洪積土壌	LPss乾田直播専用 40-0-0	乾籾6～8kg /10a
沖積壤土、沖積埴壤土		
復元田		

除草剤散布

雑草の種類に応じた除草剤を選び、遅れずに散布する

新たに「マーシェット乳剤」を掲載しました。水稲出芽前の使用で乾田時期の抑草効果が期待できます。（10a当たり）

時期	除草剤名	薬量	散布水量	備考
①出芽前（播種後10～14日間）	ラウンドアップマックスロード	200～500ml	25～50ℓ	周辺田への飛散に注意
	マーシェット乳剤	1,000～1,500ml	50～75ℓ	雑草発生前、入水15日前まで
②入水直前（イネ1.5葉期）	クリンチャーバスME液剤	1,000ml	70～100ℓ	散布後3日間は入水しない
	バッチリ1キロ粒剤	1kg		稲1葉～、ノビエ2.5葉まで
③入水後	コメット1キロ粒剤	1kg		稲1葉～、ノビエ2.5葉まで
	ポデーガードジャンボ	400g（10ℓ/㊦）		稲1葉～、ノビエ2.5葉まで
	アクシスMX1キロ粒剤	1kg		稲2葉～、ノビエ4.0葉まで
雑草が残った場合	サンバンチ1キロ粒剤	1kg		稲3葉～、ノビエ3.5葉まで
	クリンチャー1キロ粒剤、バサガラン粒剤・液剤、クリンチャーEW、クリンチャーバスME等			

※肥料・農薬名は農協の推奨品目です

病虫害防除

- いもち病予防として「オリゼメート1*。粒剤」を6月中旬に必ず散布する。
- 紋枯病対策として「モンカットファイン粉剤20DL（粉剤）またはバシタックゾル（液剤）」を8月上旬（穂ばらみ期）に散布する。

◎以後の本田防除は移植栽培に準じて行いましょう。